# FAIRY TAIL～俺と悪魔と涙の姫君～

夜桜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

## 注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ＦＡＩＲＹ　ＴＡＩＬ～俺と悪魔と涙の姫君～

【Ｎコード】
Ｎ９９４３Ｙ

【作者名】
夜桜

【あらすじ】
正規ギルド【妖精の尻尾・フェアリーテイル】と闇ギルド【悪魔の心臓・グリモアハート】に所属する。
オリジナル主人公【ランスロット】が魅せる妖精と悪魔の幻想曲の物語が始まるのだった。
オリジナルルート有り、ヒロインウルティア、愛人有り。

駄文ですがよろしくお願いします（＊＾ｏ＾＊）

## プロローグ（前書き）

初めまして！
夜桜といいます！

ＦＡＩＲＹ　ＴＡＩＬを書くのは初めてなのでぐだぐだになるかも知れませんがよろしくお願いします（＊＾ｏ＾＊）

ヒロイン未定なので誰がいいか言ってみてください♪

感想、指摘お待ちしております♪

# プロローグ

ここは、永久中立国・フィオーレ王国。

この国、有数の資産家であるハートフィリア家で事件が起ころうとしていた。

『ほう……この赤ん坊の片割れが噂の…確かに強大な魔力を有している』

一人の男がハートフィリア家の屋敷に入り込んでいた。

この男は、双子の赤ん坊の片割れを見ながら笑い出した。

『くくく……こいつを魔法開発局に実験台として売ればかなりの大金が私の手に……悪いがお前は、私の利益のために実験台になってもらう…』

男は、赤ん坊の片割れに手をかざし

『さぁ……行くとしよう…そして私の野望の糧となれ…闇ギルド…【六魔将軍・オラシオンセイス】のブレインのために…』

自らをブレインと名乗る男は双子の片割れと共に姿を消したのだ

った。

ーそして、部屋では…

ーー残された双子の片割れが

ーーーただ…一人泣くのだった

## 第一話【少女との出会い】（前書き）

皆さん、アンケートありがとうございましたm（　　）m

幼少期を少しやって、少年期まで飛ばしたいと思います！

今回と次回は幼少期でウルティアとの出会いをやりたいと思います♪

感想、指摘お待ちしております！

## 第一話【少女との出会い】

ーーここは魔法開発局のとある施設。

魔法を研究し開発する場所であった、そんな場所で僕は…

ーー飼われていた。

名前のない実験台である僕……唯一わかっているのは、5歳という年だけで自分が何者なのかわからない僕の1日は長くつらい1日だった。

実験台である、僕は子供が2人入れるくらいの鳥籠に入れられていた…

…そんな僕が鳥籠から出されると…とても痛く、つらい実験が行われる。

…そして、実験が終わればゴミくずのように鳥籠に入れられる。

ーーこれが、僕の1日だった……昨日までは…。

鳥籠に入れられて気づいた僕しか居なかったはずの鳥籠に1人の黒髪の女の子が居たのだった。

女の子は、僕を見ると…

『ごめんね。…前、一緒に居た子が居なくなっちゃったから』

居なくなった……つまり、死んだということは、幼い僕でもわかった。

でも…僕は、どう答えればいいのかわからず…

ーーただ、ただ…初めて一緒になった女の子を見つめるだけだった

『……』

『……わたしの名前は、ウルティア！　…あなたのお名前は…？』

女の子は、自分はウルティアだと名乗った…

…だけど、僕は…何も言えず黙っていることしかできなかった…。

ーーーこれが、黒髪の女の子…ウルティアとの出会いだった。

## 第二話【名前】（前書き）

ここで一旦、幼少期が終わり次から少年期になります！

感想お待ちしております！

## 第二話【名前】

…僕の鳥籠が2人になってから数日が経った。

『…今日のご飯なんだろね？　そういえば、昨日の実験痛かった？』

黒髪の女の子、ウルティアは僕に毎日話しかけてくれていた…でも、僕はどうしたらいいかわからず、黙っているだけだった。

…そんな僕に、いっさい嫌な顔をせずに笑顔を見せてくれていた。

そんな時、ウルティアは急にある話しをし始めた。

『ねぇ……伝説の騎士のお話しを知ってる？』

僕は、首を横に振る。

『前にお母さんに聞いたお話しなんだけどね……むかし、むかし…あるお姫様が魔物を操る悪い魔法使いにさらわれたんだって……お姫様を助けるために、たくさんの人が助けに行ったんだけど、魔法使いが操る魔物によって助けることができなかったんだって…』

ウルティアは、ちゃんと僕を見て話してくれた

ーーちゃんと僕に向き合って話してくれる人は、初めてかもしれな

い…

『そんな時、1人の騎士が名乗ったの【私は、ランスロット！姫を助け守る者だ！】って……、騎士ランスロットは、1人でたくさんの魔物と凶悪な魔法使いを倒したんだって……そして、お姫様を助け出した騎士ランスロットは生涯、お姫様を守り続けたんだって…』

『…かっこいいね』

『……え？』

ウルティアの驚いた声を聞いて僕は気づいた…僕が無意識に声を発していたこと

『やっと、返事してくれたね♪　…それにしても良いよね、守ってくれる人が居るのって……わたしもお姫様になりたいな！…なんてね♪』

ウルティアは笑顔を見せてくれた。

…その、笑顔を見た瞬間だった僕の中にある感情が芽生えたのが

ーー守りたい。

誰にも人として扱ってもらえなかった、僕を1人の人間として笑顔を見せてくれた女の子を……

ーーそして、僕は…

『……守る』

『ん？　…なあに？』

『…守るよ。　…僕が君を…ウルティアを…ずっと…！』

…僕は、また気づいたら声を発していた…。

ーー笑われるかもしれないと、思ったけど…ウルティアは…

『…うん、約束だよ。　…じゃあ今日からわたしを待ってくれる騎士…ランスロットだね♪』

ーーこうして、僕に‘ランスロット’という名前ができて。

ーーウルティアという、守るべき者ができたのだった。

## 【主人公設定】（前書き）

小説タイトル変更と主人公設定を変更しました！

## 【主人公設定】

名前
ランスロット

性別
男

一人称
俺

容姿
【髪】
金髪のストレートヘアーに目の色は赤という中性的な美貌を持つ美少年。
背中ほどの髪を赤いリボンで髪を束ね、毛先には青白いメッシュが入っている。
【服】
白いワイシャツと赤いスーツを崩して着ていて上着は肩に掛けている。
【顔、身長、体重】
双子のルーシィと全く同じであるが目の色だけが違う。

魔法
星霊魔法
【子犬座・ニコラ】
【白狼宮・ウルフ】

【鬼神宮・オーガ】
神のアーク
【八岐大蛇召喚陣】
【天照攻式魔法陣】
【月詠守式魔法陣】
【素戔嗚尊憑依陣】

備考
・ルーシィと双子
・化猫の宿に所属
・悪魔の心臓のマスターハデスの弟子
・女の子大好き（老若男女関係なしに）
・本命はウルティア
・本当は悪魔の心臓に所属
・愛人多数

## 第三話【始まりの朝】（前書き）

いろいろと設定を変更！

青年期から突入！！

ちなみに化猫の宿所属からスタートです！

## 第三話【始まりの朝】

ここは、フィオーレ大陸にある、魔導師ギルド・化猫の宿（ケットシェルター）このギルドに所属する青年が住む部屋。

この部屋に一人の少女と一匹の白猫がやって来ていた。

『シャルル！　勝手に入っちゃダメだよー！』

『いいのよウェンディ！　あんた！　もう朝よ！　いつまでも寝てないで起きなさい！！』

少女ことウェンディが部屋の主の許可なしに部屋に入っていく白猫、シャルルを制止するがシャルルは制止を振り切り部屋の奥へと歩いていく。

その後を追ってウェンディも部屋の奥に向かって行く

『ランスロット、お邪魔するね！』

何度か家に入ったことがあるらしく、彼女達の探している人物が居るであろう部屋の前にまでたどり着いた。

『いつまで寝てるの！　集合時間はとっくに……』

シャルルは、勢いよく扉を開けると突然止まった。

まるで、蛇に睨まれた蛙のように…

『……？　どうしたの、シャルル？　固まって…』

ウェンディは、中を覗こうとすると、シャルルはハッとして

『ダメよ！　ウェンディ！』

しかし、シャルルの制止の言葉は遅かった

『ランスロット～？』

ウェンディが部屋の中を覗くと

『今日も、いい天気だな～』

部屋の窓を開けて、外の景色を眺める、真っ裸の青年だった。

青年こと、ランスロットはウェンディ、シャルルに気づいていないようで

『見ろよ…カナ。　今日は天気がいいぞ！　マグノリアの町に帰るんだよな？』

部屋のベッドに寝ころんでいる女性に言うと

『うっさいわね……朝っぱらから…』

こちらのカナと呼ばれる女性も服を纏ってはいなかった。

『そんなこと言うなよ、こんなに気持ちいい朝なんだ！　一緒に風呂入って、お散歩デートと行こうじゃないか！』

ランスロットが振り向くと

『……ランスロット、最低！』

『服を着なさい！　この変態！』

ウェンディとシャルルが顔を真っ赤にして見ていたのだった。

『……はいはいはい。　なぜ、ウェンディとシャルルが居るんだ？』

ウェンディとシャルルの存在に気づくと、二人に近づくが

『ち、近寄るんじゃないわよ！　ウェンディ！　目を隠しなさい！』

『う、うん！』

彼女達は、目を手で隠すが

『ウェンディ！　指を開いて見てるんじゃないわよ！』

『シャルルこそ！』

そろそろ、異性に興味が出てきた、少女と猫だった。

そんな時、ベッドに居たカナが

『ランスロット～！　シャワー借りるわよ』

浴室へ向かって行った。

『で、こんな朝っぱらになんかよう？　これからカナとお散歩デートを』

その瞬間、ランスロットの顔にコップが直撃した。

『服を着なさい！』

シャルルによって放たれた、一撃だった。

それを顔面に受けたランスロットは

『……ガ、ガラス製は…ダ…メ！！』

崩れ落ちて、気を失ったのだった。

## ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9943y/

FAIRY TAIL～俺と悪魔と涙の姫君～

2011年12月15日02時51分発行